

2014年 11月8日（土） 松本深志高校36回生特別講義 講師と講義内容一覧

	氏名	職種・分野	勤務先・役職	演題	講義内容
1	浅川 達人	教育研究 (社会学)	明治学院大学 社会学部 教授	「教員・研究者・学者」 ～大学教授はおいしい仕事？～	「社会学」という、地理でも歴史でも公民でもないけれども、それら全てを内包した学問である「社会学」を大学生に教えるのが私の仕事です。では授業がない夏休みなどは何をしているか。研究者として、研究成果を国内外の学会大会で報告したり、論文を専門誌に投稿したり、研究成果を広く社会に還元するために一般書やテキストを執筆したりしています。さらには、学識経験者として省庁の研究會に招聘されたり、講演を依頼されたりすることもあります。高校生だったころには想像さえしなかった（できなかった）「大学教授」という仕事について、それがどのようなもので、どこにやりがいがあるのか、お話したいと思います。
2	麻和 正志	教育	松本市立 大野川小学校教諭	子どもたちの心に火をつける 小学校の実践 ～映画制作活動より～	「総合的な学習の時間に映画をつくりたい」そんな子どもたちの声を聞き、高校では漫画研究会に所属してアニメや映像への憧れのあった私が、児童の願いに賛同して一般の人が観ても恥ずかしくない「感動できる」映画を目標に、受け持ち学級で制作を始めたのが12年前。それから毎年、小学生が想像を広げてアイデアを出し合い、自らスタッフやキャストになってファンタジーやSFの世界を工夫して創り上げてきました。さらに彼らには映画の上映会運営を通じて、自信を持ち、考え方や行動力、仲間との協力、思いやりなどを深め、成長していく様子も見られました。 「特に優れた教育は『子どもたちの心に火をつける』と言われます。制作してきた映画やCMの一部、そして子どもたちの姿を紹介しながら、学校教育の現場についてお話ができればと考えています。
3	伊佐治光男	経営・ ITコンサル ティング	アクセンチュア株式会社 製造・流通本部 マネジングディレクター	グローバル人材とは？ ～日本経済が皆さんに期待 していること～	日本企業は今、海外市場での成長を実現するために、世界各国の人々と協働できる“グローバル人材”を必要としています。それも、一部の特殊な人にそうなるのではなく、幹部社員には皆そうなるべく、というレベルです。このような需要に対し、実際の人材供給は全く追いついていません。そのような状況にある企業のお手伝いをする中で痛感するのは、「大人になってから急に、グローバル人材になれ、と言っても遅い」ということです。 大学には、グローバル人材としてのスキルを磨く機会がいろいろとあります。ですが、そのような機会を積極的に利用しようと思うかどうか、その考え方・姿勢は高校生までの段階で固まってしまうようです。皆さんにとって、今はとても大事な時期だと思います。 このような視点から、①日本企業にとってグローバル化はどの程度深刻な問題なのか、②求められているグローバル人材とはどんなものなのか、③今から出来ることは何か、といったことについてお話しします。
4	伊佐津さゆり	音楽家・ ジャズピアニスト	“信州ジャズ” ピアニスト・作曲家	安曇野から発信する ”信州ジャズ”	高校時代も音楽が大好きで、音楽大学へ進学。大学時代からジャズに目覚め、早稲田大学モダンジャズ研究会や東京工業大学ジャズ研究会に参加、都内でのライブ活動を経験。結婚を機に暫らく演奏活動を休止後、徐々に地元でまた活動を再開。2年前に、信州で暮らす中で生まれた自身のオリジナル曲や信州ゆかりの曲をアレンジした、“信州ジャズ”という音楽で、ファーストアルバム「Field」を、この秋には、セカンドアルバム「Gift」を全国リリース。結婚後の一時は、主婦として音楽とは無縁な生活をしてきた私が、現在は県内外でライブ活動しています。 講義の中では、演奏と共に、“信州ジャズ”のライブ活動で広がる素敵な出会いについて、お話したいと思います。
5	大久保 剛	教育	松本市立中山小学校 教諭	来たれ信州教育～我が郷土の 子ども達と共に学ぼう。	教職に就いて20年余り、義務教育では小1から中3までのすべての学年、そして特別支援学校の経験を経る一方で、高校生も1年から3年まで教育過程に準ずる教育で3年間経験させていただきました。それらを経験する中で、児童や生徒の目線からはわかりにくい教師の仕事とやりがい、また特別支援学校での自立を目指す子どもたちへの支援の実践、そして高2の皆さんが、数年後に教員採用試験を受けるにあたって今後どういうことを考えて学んでいったり進路を考えていけばよいのか（大学や学部選択など含む）など大きく3本立てで話をしたいと考えています。教育の魅力について感じていただけたら嬉しいです。

2014年 11月8日（土） 松本深志高校36回生特別講義 講師と講義内容一覧

	氏名	職種・分野	勤務先・役職	演題	講義内容
6	上條 陽子	医療	信州大学医学部附属病院・副看護部長・助産師	看護師・助産師の世界	看護師はとてもメジャーな職業ですが、どんな仕事をしているかご存知ですか？今でも医師のお手伝いくらいに思っている方も多いかもしれません。以前は看護婦という名称でしたが、現在は看護師になりました。決して女性だけの仕事ではありません。当院の看護師は1割が男性看護師です。講義では、幅広い看護師の仕事についてご紹介します。また、私は看護師免許を取得したあと助産師のコースに進学し、25年間助産師として仕事をしてきました。助産師の仕事、お産のことについてもご紹介して、医療の中の看護、助産の魅力についてお伝えしたいと思います。
7	清水 成海	運輸 (航空)	日本航空 (JAL)	航空業界について (どのような業務があるか)	第一部 自己紹介 飛行機が空港に到着して出発するまでの流れを、ビデオを見ていただき、どのような人たちが携わっているのかをお話し、更に航空会社(グループ会社)にはどのような業種があるのかを説明します。 飛行機についてのうんちくも交えて、簡単に知識を深めていただきます。 第二部 客室乗務員の業務について話を展開します。 客室乗務員になるためには、どのような訓練をするのか、接客の知識について話をします。
8	田嶋由利子	金融	三井住友信託銀行	アナリストという仕事 ～すべての仕事の基本は コミュニケーションにある～	私は信託銀行入社以来一貫して年金資産運用に携わり、その中で15年半強を株式アナリストとして活動しました。株式アナリストの仕事は、株式の真の価値を見極め投資判断を行うことです。「専門的で難しそう」なイメージが強いと思いますが、実際には相手とのコミュニケーションが最も重要です。「相手とのコミュニケーションをどうとるか」は、職種を問わず、社会人に最も必要かつ基本的なスキルであると実感しています。
9	中野 仁志	宇宙開発	有人宇宙システム (株)	就職先としての宇宙開発	宇宙開発を仕事にするためにはどのような方法があるのかを紹介します。 具体的にはJAXAおよびそれ以外の宇宙開発関連会社の紹介と、就職の際の注意点などを説明します。 (発表者は、つくば宇宙センターでの国際宇宙ステーションの運用など、日本の宇宙開発に携わってきた者です。)
10	藤森 俊彦	研究・教育	自然科学研究機構・ 基礎生物学研究所・ 教授	発生生物学の今	深志在学中は、物理研究会に所属し、郷友会は桔梗会でした。物理を学ぼうと思って大学へ入ったのは良いけれど、半ば落ちこぼれ。どうしたものか迷っている所に生物の形の不思議さに気づき、動物の体がどのようにできるかを考える発生生物学の研究の世界に入りこみました。哺乳類の卵からどうやって様々な種類の細胞ができて、体の形が作り出されるかを理解することがここしばらくの目標です。研究者としての仕事の醍醐味(とやっかいなこと)と、発生生物学の面白さを伝えたいと考えています。
11	宮島 香澄	報道記者・ 解説委員 マスコミ	日本テレビ放送網 (株) 報道局解説委員	「テレビ・ニュースの仕事」 ～今や深志の半数と聞く、 女子生徒への応援もこめて～	「入社3年目から報道記者、今は経済・社会保障分野のニュース解説などをしています。 超体育会系の高校生活、いろいろ首をつっこんだ大学生活を経て、大学4年の時にたまたま行ったセミナーがきっかけでテレビの仕事に就きました。でも、長時間労働・突発対応が避けられないニュースの仕事、現場は30才くらいまでかなあと感じていました。それなのになぜ、結婚、息子たちの子育てをしながら今まで続けているのか？歴史のひとつにもなりそうな取材現場や、心揺さぶられる人との出会いが幾度もあったからだだと思います。最近では3K?として敬遠されがちな報道の現場に、少しご関心をもっていただければ嬉しいです。」